

## 下関の初夏

毎年5月の第3日曜日に長門の国一の宮住吉神社で御田植祭が行われます。御田植祭は約1,800年前に神功皇后が住吉大社で五穀豊穡を祈願し、苗を植えたのが始まりと言われる伝統行事です。

御田植祭には下関市立勝山中学校の生徒たちが、奉仕者としてそれぞれ、舞姫、八乙女（神楽で舞を披露する巫女）、早乙女（田植えの苗を植える人）、田男に扮して参加します。舞姫は巫女衣装に千早を纏います。八乙女は白衣に緋袴、緋襷、菅笠と衣装で身をつつみます。早乙女は紺緋に手甲、脚半、手ぬぐいの白に紅襷、菅笠の晴れ姿となります。本殿祭が終わると、神官、巫女、八乙女、早乙女、田男は石段を下り、神社近くにある神饌田に移動します。それまでに真っ黒で巨大な牝牛が2枚の神饌田の代かきを終えています。

神饌田では神事として害虫や悪霊が来ないように勇敢な「弓鎮治舞」や舞姫二人の祓う「田植舞」、歌姫の唄に合わせて「八乙女舞」、早乙女が畦道で舞う「早乙女舞」が披露されます。

楽屋から出てきた女子中学生は口紅で見事な早乙女に変身していました。

### 紅差され早乙女となる中学生

6月に下関の割烹料亭「お富」で研究会の打ち上げを行いました。その時に「僕の住む長府では素晴らしい初日の出が満珠から登るのが見える」と自慢しました。ある元旦の朝、長府のマンションの8階のカーテンを開けると初日の出が

飄

々

広報委員

石田 健

満珠から立ち登る事に気づいたのです。こんなに素晴らしい初日の出はこれまで見たことはありませんでした。下関に転勤して、たまたま入居したマンションに、年一回とは言えこんなに素晴らしい初日の出を眺められる事を知り、大変感動しました。この話を登山部で話すと、関ヶ原以降、長府毛利の殿様に同行して長府に来られた方の子孫の方が、「どこに屋敷を建ててもよかったが、初日の出が満珠から登るのが見られるこの地に屋敷を建てたと、初代から伝え聞いている。君はうちの初代の言い伝えを言っている」と言われました。

### 闇を脱ぐ満珠干珠や初明り

宴会のお礼に来られていた女将が、その話を聞かれ、『お富』からですと元旦の日の出は関門橋の門司側のふもとから登り、6月は橋の中央から登ります。一年間で一番美しい日の出となります。その後、日の出は12月にまた門司側に戻ります。6月の今が一番美しい日の出が見えますので、今夜はここに宿をとって、6月の関門橋の日の出を見てください」と仰った。日の出は見えていませんが、

### 六月の日の出は橋の中央に

という俳句が出来上がりました。